設置と接続 2

本装置をラックへ設置し、ケーブル類を接続して、電源をONにすることができる状態になるまでの手順と注意事項を説明します。

設　置

本装置はEIA規格に適合したラックに取り付けて使用します。

ラックの設置

ラックの設置については、ラックに添付の説明書(添付の「EXPRESSBUILDER」CD-ROMの中にもオンラインドキュメントが格納されています)を参照するか、保守サービス会社にお問い合わせください。
ラックの設置作業は保守サービス会社に依頼することもできます。

⚠警告

装置を安全にお使いいただくために次の注意事項を必ずお守りください。人が死亡するまたは重傷を負うおそれがあります。詳しくは、iiiページ以降の説明をご覧ください。

- 指定以外の場所で使用しない

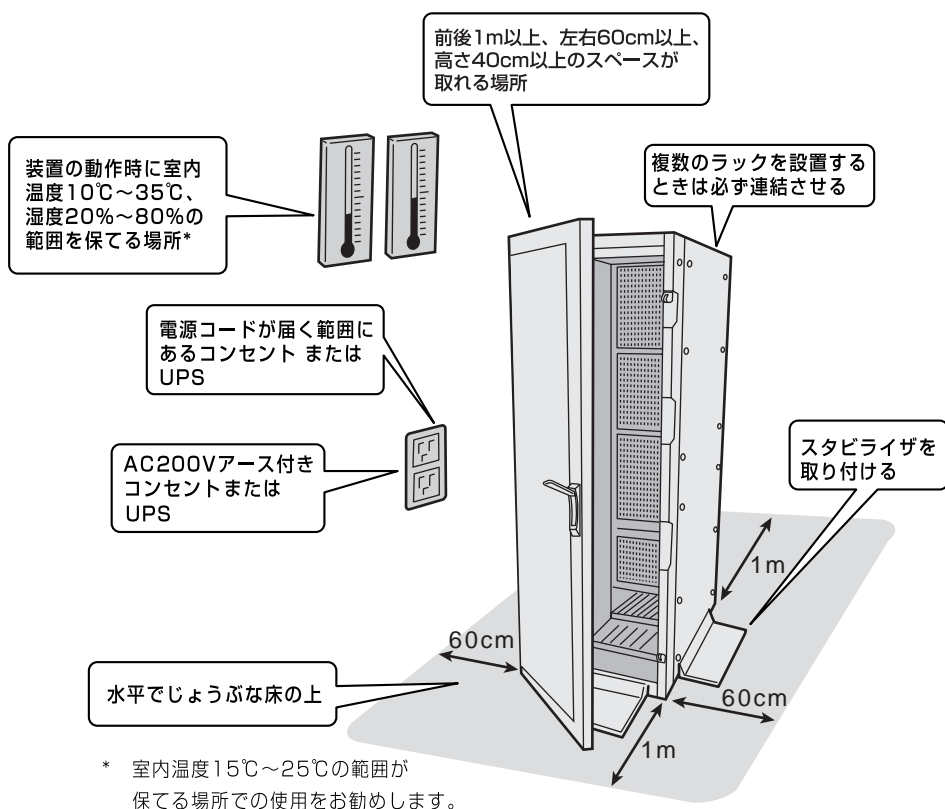
⚠注意

装置を安全にお使いいただくために次の注意事項を必ずお守りください。火傷やけがなどを負うおそれや物的損害を負うおそれがあります。詳しくは、iiiページ以降の説明をご覧ください。

- 1人で搬送・設置をしない
- 荷重が集中してしまうような設置はしない
- 1人で部品の取り付けをしない。ラック用ドアのヒンジのピンを確認する。
- ラックが不安定な状態でデバイスをラックから引き出さない
- 複数台のデバイスをラックから引き出した状態にしない
- 定格電源を超える配線をしない

本装置の設置にふさわしい場所は次の通りです。

* 室内温度15℃～25℃の範囲が保てる場所での使用をお勧めします。

重要

ラック内部の温度上昇とエアフローについて

複数台の装置を搭載したり、ラックの内部の通気が不十分だったりすると、ラック内部の温度が各装置から発する熱によって上昇し、本装置の動作保証温度(10℃～35℃)を超え、誤動作をしてしまうおそれがあります。運用中にラック内部の温度が保証範囲を超えないようラック内部、および室内のエアフローについて十分な検討と対策をしてください。

次に示す条件に当てはまるような場所には、設置しないでください。これらの場所にラックを設置したり、ラックに本装置を搭載したりすると、誤動作の原因となります。

- 装置をラックから完全に引き出せないような狭い場所。
- ラックや搭載する装置の総重量に耐えられない場所。
- スタビライザが設置できない場所や耐震工事を施さないと設置できない場所。
- 床におうとつや傾斜がある場所。
- 温度変化の激しい場所（暖房器、エアコン、冷蔵庫などの近く）。
- 強い振動の発生する場所。
- 腐食性ガスの発生する場所（大気中に硫黄の蒸気が発生する環境下など）、薬品類の近くや薬品類がかかるおそれのある場所。
- 帯電防止加工が施されていないじゅうたんを敷いた場所。
- 物の落下が考えられる場所。
- 強い磁界を発生させるもの（テレビ、ラジオ、放送/通信用アンテナ、送電線、電磁クレーンなど）の近く（やむを得ない場合は、保守サービス会社に連絡してシールド工事などを行ってください）。
- 本装置の電源コードを他の接地線（特に大電力を消費する装置など）と共用しているコンセントに接続しなければならない場所。
- 電源ノイズ（商用電源をリレーなどでON/OFFする場合の接点スパークなど）を発生する装置の近く（電源ノイズを発生する装置の近くに設置するときは電源配線の分離やノイズフィルタの取り付けなどを保守サービス会社に連絡して行ってください）。

ラックへの取り付け/ラックからの取り外し

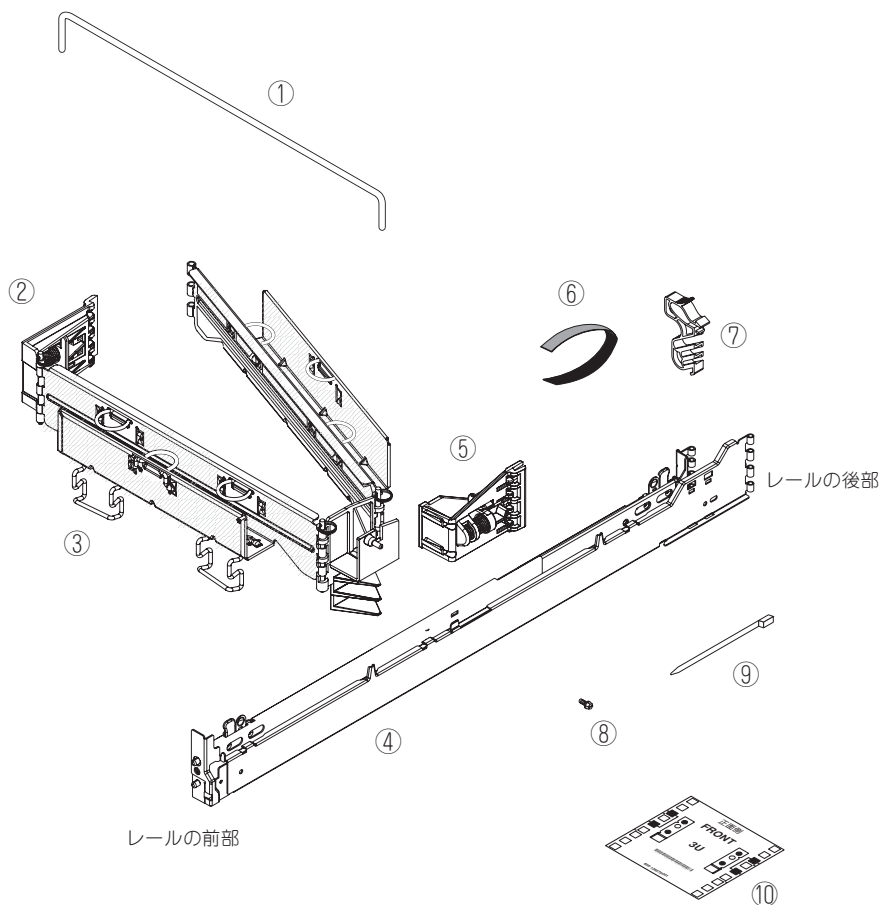
本装置をラックに取り付けます（取り外し手順についても説明しています）。
別売の内蔵型オプションを購入している場合は8章を参照して、ラックに取り付ける前に取り付けてください。

⚠ 注意

装置を安全にお使いいただくために次の注意事項を必ずお守りください。火傷やけがなどを負うおそれや物的損害を負うおそれがあります。詳しくは、iiiページ以降の説明をご覧ください。

- **2人以下で持ち上げない**
- **指定以外の場所に設置しない**
- **カバーを外したまま取り付けない**
- **指を挟まない**

取り付け部品の確認

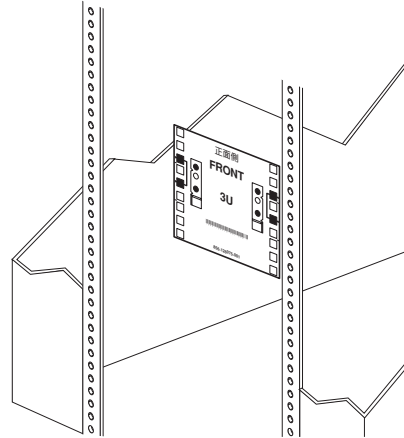
ラックへ取り付けるために次の部品があることを確認してください。

項番	名　称	数量	備　考
①	スタビライザバー	1	ケーブルアームアセンブリと一体になっている。
②	ケーブルアームブラケット	1	ケーブルアームアセンブリと一体になっている。
③	ケーブルアームアセンブリ	1	
④	スライドレール	2	Left(左)用とRight(右)用各１本
⑤	ケーブルアームスロープアセンブリ	1	
⑥	ケーブルストラップ	5	
⑦	ケーブル固定ブラケット	2	
⑧	M6ネジ	5	4本使用、1本は予備
⑨	ケーブルタイ	5	
⑩	テンプレート	1	

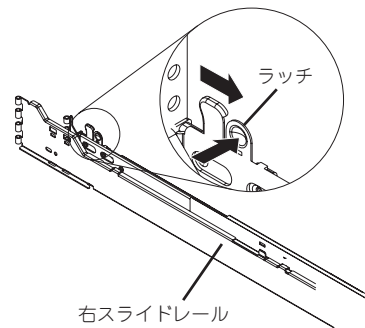
取り付け手順

次の手順で装置をラックへ取り付けます。

重要 **弊社のオプションラック(N8140-74)へ取り付けることはできません。**

1. テンプレートを使って装置を取り付ける位置(高さ)を決める。

   テンプレートの高さは本装置と同じです。テンプレートをラックの前後にあてて取り付ける位置を決めてください。また、テンプレートには、スライドレールの取り付け位置が書かれてい ます。これらの取り付け位置を確認してください。

2. スライドレールの準備をする。

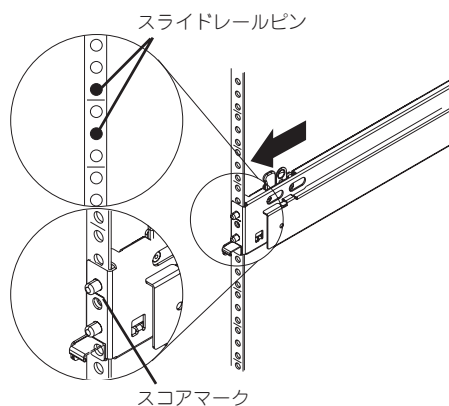
   スライドレールのラッチを外側に押して、次にラッチを手前に引きスライドレールを開きます。ラッチが固定されて開いたままの状態になります。スライドレールのもう一方の端も同様に開きます。反対側のスライドレールについても同じ手順を繰り返します。

各スライドレールには、それぞれ「Left」(左)および「Right」(右) の印が入っています。

⚠ 注意

装置を安全にお使いいただくために次の注意事項を必ずお守りください。火傷やけがなどを負うおそれや物的損害を負うおそれがあります。詳しくは、iiiページ以降の説明をご覧ください。

- **ゆびを挟む危険性があります。取り扱い時には、ゆびなどを挟まないよう、十分注意してください。**

3. スライドレールを取り付ける。

左スライドレールを前部マウントフランジの位置に合わせます。スコアマークを、上部2つの1U搭載位置の間にある線に合わせます。スライドレールラッチを外側に押してスライドレールラッチを閉じ、スライドレールを固定します。右スライドレールの前部についても、同様の手順でラック前部のマウントフランジに固定します。次に左右の各スライドレールをラック後部のマウントフランジの位置に合わせます。ラッチを閉じて、両側のスライドレールの後部を固定します。スライドレールの後側は添付のM6ネジ1本で固定します。

重要

両側のスライドレールがマウントフランジにしっかり固定されていることを確認してください。しっかりと固定されている場合は、スライドレールピンがマウントフランジおよびスライドレールから飛び出した状態になります。

ヒント

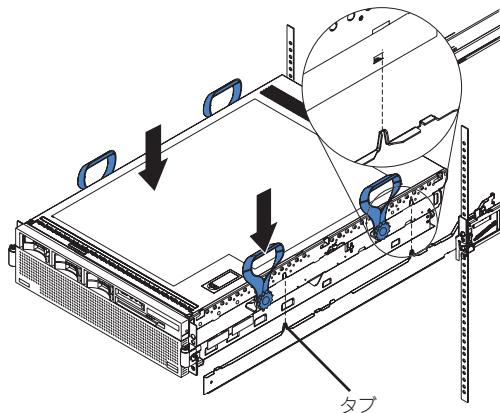
この時点では、後側のみM6ネジで固定します。前側のネジは 装置をラック内に固定する際に使用します。

4. 装置本体を搭載する。

両側のスライドレールがロックするまでラックから手前に引き出します。スライドレールのタブを装置本体の対応する差し込み部分に合わせてから装置本体をスライドレールに降ろします。

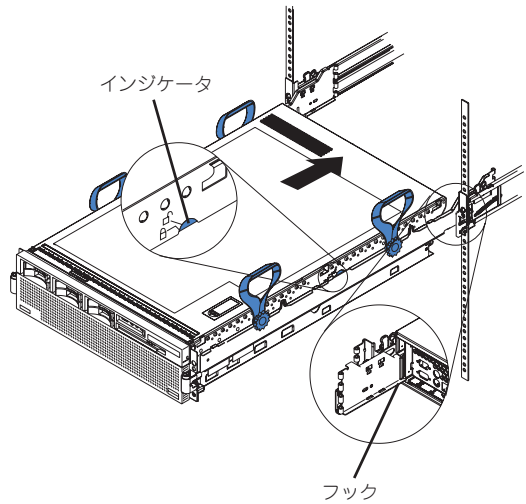
重要

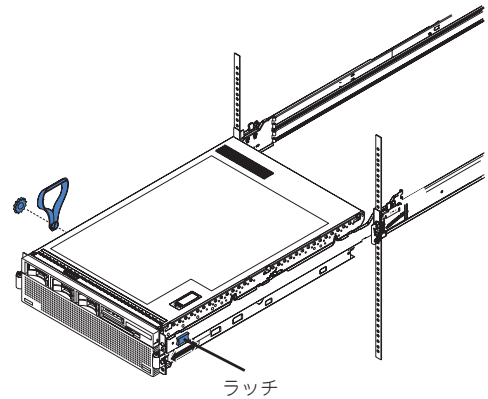
各スライドレールのタブが装置本体の対応する差し込み部分にしっかりと挿入されていること、および装置本体がスライドレールの上端に載っていることを確認してください。

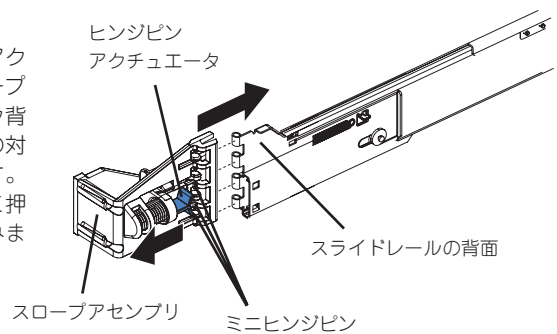
2 設置と接続

5. 装置本体を固定する。

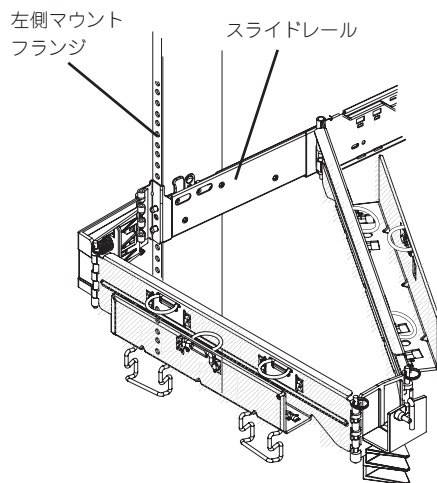
装置本体をスライドレールに沿って約25 mm ラック方向に慎重にスライドさせて装置本体をスライドレール上でロックさせます。

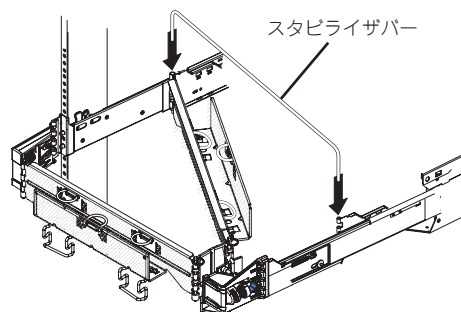
重要

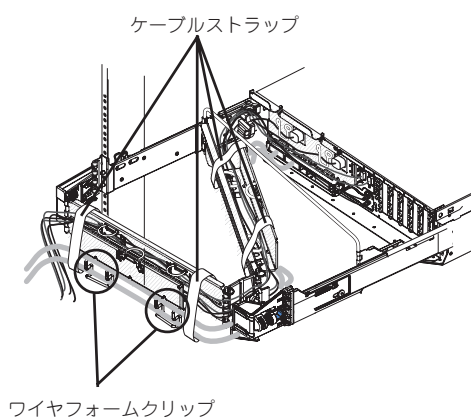
装置本体が所定の位置でロックされると、装置本体の各側面にある青色のインジケータが見えるようになります。装置本体がスライドレールのフックにしっかりと接触していることを確認してください。装置本体をラックから取り外す場合は、装置本体をインジケータのところで持ち上げて手前にスライドさせます。続いてハンドルを利用して装置本体をラックから取り外します。

6. 装置本体をラック内へ押し込む。

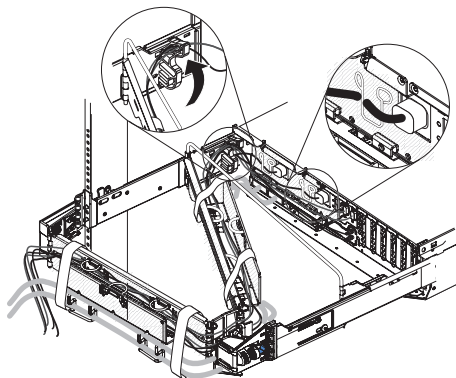
青いハンドル4個をすべて取り外し、スライドレール上の青いラッチを手前に引いてラッチを解除し、装置本体がラックから約10cm出た状態になるまでラックにスライドさせて押し込みます。

7. スロープアセンブリを取り付ける。

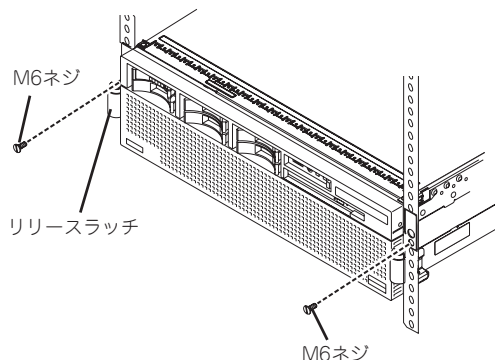
スロープアセンブリ上のヒンジピンアクチュエータを手前に引き戻し、スロープアセンブリのミニヒンジピンをラック背面に向かって右側のスライドレールの対応するヒンジにそれぞれセットします。ヒンジピンアクチュエータを前方に押し、ヒンジピンをしっかりとはめ込みます。

8. ケーブルアームアセンブリを取り付ける。

手順7と同様に、ケーブルアームアセンブリをラック背面に向かって左側のスライドレールに取り付けます。

9. スタビライザバーを取り付ける。

ケーブルアームアセンブリの空いている方の端を、スタビライザバーの一方の端を使用して、ラック背面に向かって左側のスライドレールに取り付けます。
スタビライザバーのもう一方の端をラック背面に向かって右側のスライドレールに取り付けます。

10. ケーブルを取り付ける。

8プロセッサ構成にしている場合は、SMP拡張ケーブルをケーブルアームアセンブリ下部にあるワイヤフォームクリップを通してフォーミングします。電源コードおよびその他のケーブル(キーボード、モニタ、およびマウスのケーブルなど) を装置本体背面に接続した後、ケーブルアームアセンブリ上部のケーブルルートを通してフォーミングします。最後にすべてのケーブルをケーブルストラップで固定します。

11. ケーブルを固定する。

ケーブルを、装置本体背面に沿って固定します。次に装置本体をラックから引き出し、SMP拡張ケーブルを装置本体背面からピンと張った状態にして、すべてのケーブルをケーブルストラップで締めます。

12. 装置本体をラックに押し込む。

装置本体をリリースラッチが所定の位置でロックするまでラック内に押し入れます。その後、装置前面の両側を添付のM6ネジで固定してください。装置本体をラックから取り出す場合は、M6ネジを取り外した後リリースラッチを押してください。

重要

安全のため装置前面の両側は必ずM6ネジで固定してください。

取り外し手順

装置本体をラックから取り外すには、まず装置本体背面に接続したケーブルを取り外した後、手順12で取り付けたネジを外しロックを解除します。次に手順4から6を逆の手順で行い、装置本体をラックレールから取り外します。

ケーブルアームアセンブリをスライドレールから取り外す必要はありません。また、ケーブルアームアセンブリに保持したケーブルも取り外す必要はありません。

注意

装置を安全にお使いいただくために次の注意事項を必ずお守りください。火傷やけがなどを負うおそれや物的損害を負うおそれがあります。詳しくは、iiiページ以降の説明をご覧ください。

- **2人以下で持ち上げない**
- **指を挟まない**
- **高温注意**
- **ラックが不安定な状態でデバイスをラックから引き出さない**
- **複数台のデバイスをラックから引き出した状態にしない**

接　続

本装置と周辺装置を接続します。
本装置の前面および背面には、さまざまな周辺装置と接続できるコネクタが用意されています。次の図は本装置が標準の状態で接続できる周辺装置とそのコネクタの位置を示します。周辺装置を接続してから添付の電源コードを本装置に接続し、電源プラグをコンセントにつなげます。

警告

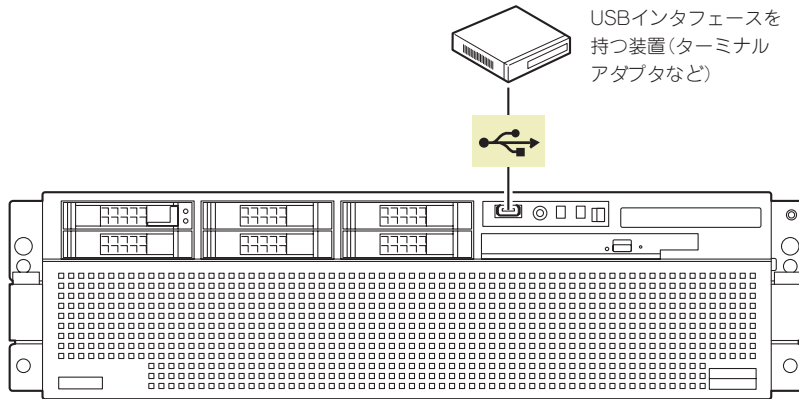
装置を安全にお使いいただくために次の注意事項を必ずお守りください。人が死亡するまたは重傷を負うおそれがあります。詳しくは、iiiページ以降の説明をご覧ください。

- **ぬれた手で電源プラグを持たない**

注意

装置を安全にお使いいただくために次の注意事項を必ずお守りください。火傷やけがなどを負うおそれや物的損害を負うおそれがあります。詳しくは、iiiページ以降の説明をご覧ください。

- **指定以外のコンセントに差し込まない**
- **たこ足配線にしない**
- **中途半端に差し込まない**
- **指定以外の電源コードを使わない**
- **電源プラグを差し込んだままインタフェースケーブルの取り付けや取り外しをしない**
- **指定以外のインタフェースケーブルを使用しない**

<前面>

<背面>

注：必ずAC200Vに接続してください。
AC100Vはサポートしておりません。
ソケット形状：NEMA L6-20R

USBインタフェースを
持つ装置(ターミナル
アダプタなど)

ハブ(マルチポート
リピータ)

LAN上のネットワーク
システム(ハブを介し
て接続されます)

シリアルインタフェース
を持つ管理PCへ

1

2

SMP拡張ポート1
8プロセッサ構成時、もう一台の装置へ

SMP拡張ポート2
8プロセッサ構成時、もう一台の装置へ

SMP拡張ポート3

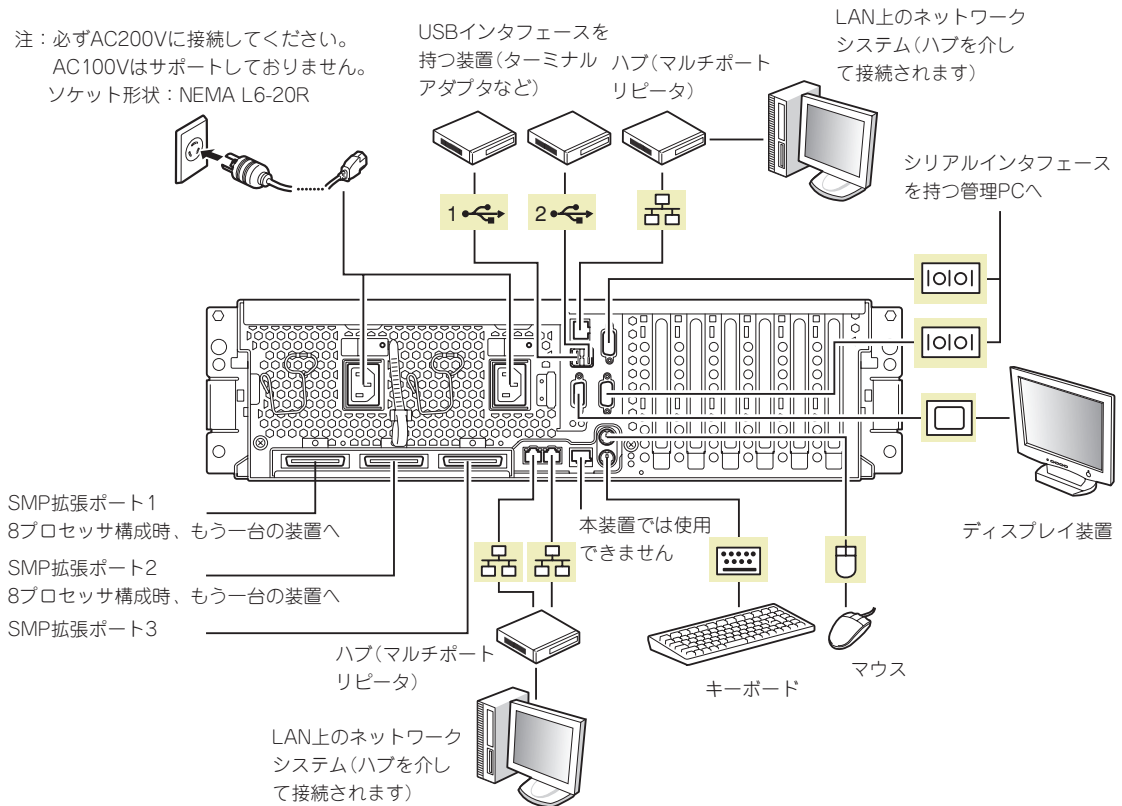
本装置では使用
できません

ディスプレイ装置

ハブ(マルチポート
リピータ)

キーボード

マウス

LAN上のネットワーク
システム(ハブを介し
て接続されます)

重要

- 電源は必ずAC200Vで使用してください。
電源ユニットの冗長機能はAC200Vで使用した場合のみ有効となります。
- 本装置および接続する周辺機器の電源をOFFにしてから接続してください。ONの状態のまま接続すると誤動作や故障の原因となります(USBデバイスを除く)。
- 弊社以外(サードパーティ)の周辺装置およびインタフェースケーブルを接続する場合は、お買い求めの販売店でそれらの装置が本装置で使用できることをあらかじめ確認してください。サードパーティの装置の中には本装置で使用できないものがあります。
- キーボード、マウスはコネクタ部分の「△」マークを上に向けて差し込んでください。
- シリアルポートAや、シリアルポートBから専用回線に直接接続することはできません。専用回線へ接続する場合には、必ず回線電気通信事業法で定められた認定を受けた端末機器から接続してください。(専用回線とは、特定の利用者に設置される専用の伝送路設備およびその付属設備を指します。NTT等の公衆回線も含まれます。)
- 接続したケーブルはケーブルアームアセンブリを通してフォーミングした後、ケーブルストラップで固定してください。
- ケーブルがラックのドアや側面のガイドレールなどに当たらないようフォーミングしてください。
- ケーブルは装置の背面で少したるませる程度にフォーミングしてください。装置を引き出したときにケーブルが抜けるのを防ぐためです。
- 電源コードのプラグ部分や、接続しているケーブルのコネクタ部分が圧迫されないようにしてください。
- 本装置のLANポート(LAN1、LAN2)にケーブルを接続する場合は、必ず装置に添付のコアを取り付けてください。
- ACインレットから電源コードのコネクタが抜け落ちるのを防止するため、ロックスプリングを通してから電源コードを差し込んでください。
- 本装置ではBMCと標準のLAN(LAN2)でポートをシェアしています。
BMCのLANインターフェースはデフォルトで以下に設定されております。

  IP Adress:169.254.000.002
  Subnet Mask:255.255.000.000
  Gateway:000.000.000.000

  このため、接続されるLAN環境に上記設定の装置が接続されていると、IPアドレスのコンフリクトが発生してしまいます。
  上記IPアドレスを避けた設定としていただくか、BIOS Configuration/Setupユーティリティから BMC LANの設定を変更してください。

  BMC LAN設定変更手順

  BIOS Configuration/Setupユーティリティで「Advanced Setup」→「Baseboard Management Controller (BMC) Settings」→「BMC Network Configuration」